

# 小学校国語科における「深い学び」の実現に向けた授業改善 ～児童が「言葉による見方・考え方」を働かせるために～

## 1 「深い学び」の実現のために

### 「深い学び」の実現に向けた授業改善の視点

「言葉による見方・考え方」を働かせ、言葉で理解したり表現したりしながら自分の思いや考えを広げ深める学習活動を設けること。

### 「深い学び」を実現した児童の姿

- ・知識を相互に関連付けてより深く理解している。
- ・情報を精査して考えを形成している。
- ・問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かっている。



国語科における「深い学び」の鍵として、「言葉による見方・考え方」を働かせることが重要です。

## 2 「言葉による見方・考え方」を働かせるとは

「言葉による見方・考え方」を働かせるとは、児童が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係性、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めることであると考えられる。

「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編」p.154

下線部に注目すると、児童が「言葉による見方・考え方を働かせる」ことは、「言葉への自覚を高めること」と捉えることができそうです。

国語科は、様々な事物、経験、思い、考え等をどのように言葉で理解し、どのように言葉で表現するか、という言葉を通じた理解や表現及びそこで用いられる言葉そのものを学習対象としています。そのため、児童が言葉に着目し、言葉に対して自覚的になるようにすることが、国語科において、育成を目指す資質・能力をよりよく身に付けることにつながります。



## 3 「深い学び」の実現に向けた授業改善のポイント

ポイント① 「言葉による見方・考え方」が意識的に働く言語活動の設定

ポイント② 単元で働かせる「言葉による見方・考え方」の自覚化

ポイント① 「言葉による見方・考え方」が意識的に働く言語活動の設定

(例) 第5学年「伝えたいことを明確にして、報告しよう」

### 単元で取り上げる指導事項

ア 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができる。

### 言語活動 報告する文章を書く

単元で取り上げる指導事項を確認し、育成を目指す資質・能力を明確にした上で、言語活動を考える。

### 言語活動の中で働く「言葉による見方・考え方」

- ・集めた情報を整理する
- ・情報の関係性を捉える
- ・伝えたいことを明確にするために構成を工夫する
- ・読み手を意識して表現の仕方を工夫する

「言葉による見方・考え方」を働かせている姿を具体的にイメージする。

### 言語活動：報告する文章を書く

相手：4年生  
内容：ユニバーサルデザイン  
目的：学習の助けとなるような文章を届ける

言語活動の目的や相手を明確にする。

### 言語活動

総合的な学習の時間でユニバーサルデザインの学習に取り組んでいる4年生に、学習の助けとなるように、ユニバーサルデザインについて報告する文章を書く。

## ポイント② 単元で働かせる「言葉による見方・考え方」の自覚化

単元の導入において

(例) 単元で働かせる「言葉による見方・考え方」について見通しをもつことができるような学習課題を設定する

学習課題  
この単元では、<sup>①</sup>伝えたいことを明確にしたり、書き表し方を工夫したりして書く力を伸ばす学習をします。  
課題は、<sup>②</sup>総合的な学習の時間でユニバーサルデザインの学習に取り組んでいる4年生に、学習の助けとなるように、<sup>③</sup>ユニバーサルデザインについて報告する文章を届けることです。

4年生に分かりやすく伝えるために、どんな言葉を選んだらいいかな。

4年生が気付かないような情報を選んで伝えたいな。



- ① 身に付けさせたい資質・能力
- ② 目的意識や相手意識の明確化
- ③ 言語活動の内容

振り返りにおいて

(例) 「言葉による見方・考え方」の確認と活用を促すための振り返りの視点を示す

本時のめあては、「集めた情報を整理して、報告する文章で伝えたいことを明確にしよう」でした。振り返りでは、何ができたかだけでなく、どうやったらできたかを書きましょう。また、それを次の学習にどのように生かしていきたいかについても書きましょう。



同じ言葉や似ている言葉に注目して情報を分けて、見出しを付けたことで、伝えたいことを明確にすることができました。次の学習では、伝えたいことが明確になるように、見出しを工夫しながら、文章の構成を整えたいです。

本時で働かせた「言葉による見方・考え方」を次時で生かそうとする児童の振り返り

見出しを付けて情報をまとめることで、何を一番伝えたいのか明確にすることができました。次に情報を整理するときは、同じ言葉や似ている言葉、内容に注目してまとめることで、伝えたいことを明確にしたいです。

本時で働かせた「言葉による見方・考え方」をほかの単元で生かそうとする児童の振り返り

「深い学び」の実現を図るには、児童が「言葉による見方・考え方」を働かせることが大切です。そのために、目的や相手を明確にした言語活動を設定し、児童が言葉に着目し、言葉に対して自覚的になるようにすることができるようになりましょう。また、単元の導入や振り返りでは、どのような「言葉による見方・考え方」を働かせるかあるいは働かせたかについて自覚化できるように働きかけましょう。

